

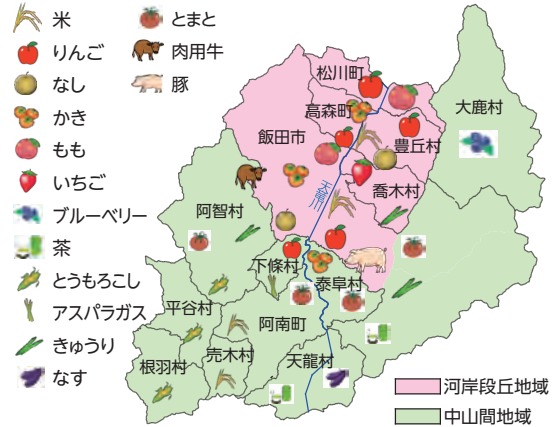
## 南信州地域の整備方向

### 地域農業の特徴と農地の整備状況

#### ○地域農業の特徴

地形的な特徴から、北部の「河岸段丘地域」と、それ以外の「中山間地域」に大別できます。

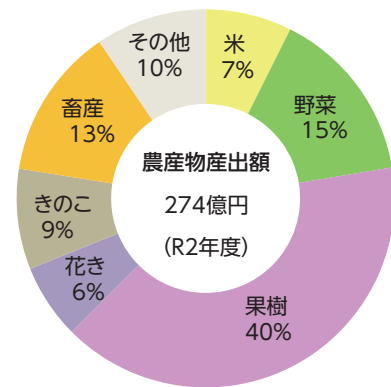
「河岸段丘地域」では、天竜川沿いに広がる平地が水田として、その上段の段丘面などでは、県下有数の果樹産地として活用されています。一方、「中山間地域」では、地形的な制約からまとまった農地が少なく、区画も小さいため、それぞれの条件に応じた野菜などを少量多品目に生産しています。



天竜川沿いに広がる水田  
(松川町元大島)



傾斜地にある畑  
(飯田市上村下栗)



〔管内の農地面積 7,970ha〕



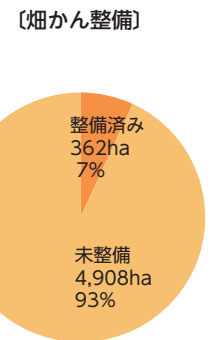
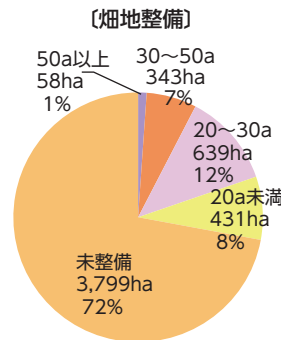
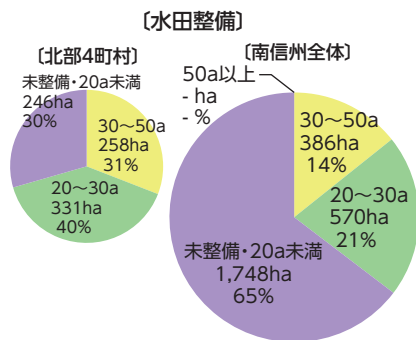
#### ○農地等の整備状況

水田の整備率（20a以上の区画に整備されている水田）は、地域全体では35%ですが、「河岸段丘地域」にある北部4町村では71%と県平均の56%を大きく上回っています。また、畑については、樹園地や傾斜地にある畑が多いことから、28%の整備率となっています。

基幹的農業水利施設は、53kmある全ての施設において機能保全計画が策定され、施設の長寿命化に向けた補修や補強、更新が計画的に進められています。

農業農村整備事業による

ICT化やスマート農業の導入については、竜東一貫水路（小渋川地区）における水門の集中制御や、ため池（沢城ほか2か所）における遠隔監視システムが整備されています。



〔基幹的農業水利施設の一覧〕

	用排水路 (km)	頭首工 (か所)	用排水機場 (か所)	水路橋 (か所)
延長・箇所	53	7	0	15
		水路トンネル (か所)	サイホン (か所)	ダム・ため池 (か所)
		40	30	0

〔農業農村整備事業による ICT化やスマート農業の導入状況〕

水門を自動化・遠隔化した施設	ため池の遠隔監視
<p>19 か所 小渋川地区</p>	<p>3 か所 沢城ほか</p>

地域の現状と課題

- ▷ 北部の「河岸段丘地域」には、竜西一貫水路や竜東一貫水路を始めとする幹線用水路が整備されています。しかし、経年劣化が進行してきており、計画的な補修、更新が必要となっています。
- ▷ 農産物産出額の40%以上を果樹が占める県下有数の果樹産地ですが、後継者不足による廃園や老木化園の増加などで産地維持が危ぶまれています。そのため、果樹産地の再構築に向けた取組みが必要となっています。
- ▷ 小規模な農家が多く、高齢化も進んでいるため、担い手確保が喫緊の課題です。そのため、農業法人や個別経営体への農地集積を進めるため、農地の耕作条件の改善が必要となっています。
- ▷ 地域全体が「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されています。そのため、ため池などの土地改良施設への耐震対策が必要となっています。
- ▷ 高齢化や過疎化の進行により、地域住民だけでは集落機能の維持が困難になりつつある集落もあります。そのため、定住条件の整備のほか“つながり人口”の定着に繋がる交流施設の整備が求められています。



補修が必要な水路トンネル（竜東一貫水路）

施策の展開方向

I 次代を担う産地を支える基盤整備の推進

達成指標

	現状（R3年度）	→	目標（R9年度）
○農業用水を安定供給するために重要な農業水利施設の整備箇所数（計画期間内整備量）	※		5か所

※計画期間内整備量のため現状は記載していない

整備方向

- ▷ 農業生産に欠くことができない用水を安定的に供給するため、既存の基幹的農業水利施設の補修・更新を行います。
- ▷ リンゴやなし等が栽培されている樹園地について、円滑な樹園地継承や新たな品種への転換、早期多収・省力化技術の拡大に繋がる基盤整備を行います。
- ▷ 担い手への農地集積につながる、きめの細かい整備を行います。



リンゴの高密植栽培への転換（喬木村）



きめの細かい耕作条件の整備（豊丘村）



補修を行った竜東一貫水路（豊丘村）



## II 安全安心で持続可能な農村の基盤づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○防災重点農業用ため池の耐震性診断の実施箇所数	9 箇所		31 箇所
○地すべり防止施設に対する長寿命化対策の着手区域数 (計画期間内着手区域数)	※		8 区域

※計画期間内整備量のため現状は記載していない

### 整備方向

- ▷ 防災重点農業用ため池の耐震性診断を進め、対策が必要なため池については対策工事を実施します。
- ▷ 地すべり防止工事や、地すべり防止施設の長寿命化対策を着実に実施するとともに、地すべり防止区域の日常的な監視など、適切な管理を行います。
- ▷ 水門操作の自動化や遠隔化の啓発を進め、用水管理の省力化、豪雨時の迅速な水門操作や作業時の安全確保といった、新たな取組みを展開します。



簡易吹付法枠工による地すべり対策 (阿南町)

## III 農的つながり人口の創出・拡大による農村づくり

達成指標	現状 (R3 年度)	→	目標 (R9 年度)
○地域ぐるみで取り組む多面的機能を維持・発揮するための活動面積	2,275ha		2,359ha
○交流人口増加促進につながる施設の整備箇所数 (計画期間内整備施設数)	※		2 箇所

※計画期間内整備箇所数のため現状は記載していない

### 整備方向

- ▷ 多面的機能支払事業や中山間直接支払事業などを活用し、地域ぐるみの共同活動を支援します。
- ▷ 地域の活性化構想などに基づき、定住条件の整備や“つながり人口”の定着に資する施設整備を進めます。
- ▷ 棚田などの地域資源を活用した地域活性化へ繋がる取組や、歴史的な土地改良施設などを観光資源として活用する取組を積極的に支援します。



よこね田んぼの稲刈りイベント (飯田市千代)



竜西一貫水路を巡る観光ツアー (飯田市毛賀)



一部改修を予定している伝承センター (阿南町新野) ユネスコ無形文化遺産に登録された風流踊りの一つである「新野の盆踊り」の資料展示がなされています。

TOPICS

「日本なし産地再生プロジェクト」がスタート

南信州地域は、日本なしを栽培する県下有数の産地です。その歴史は古く、一説では、明治の初め頃に養蚕からの切り替えで広がったともいわれています。

しかし、近年では生産者の高齢化等により、栽培面積や生産量が減少傾向にあり、産地の維持についても懸念が生じ始めています。一方、全国的な日本なし需要は近年伸びてきており、果樹農家の所得向上を図る上で重要な品目とも位置付けられています。

そこで、生産者、農協、行政機関等が一体となって日本なしの振興に取り組むため、令和4年6月30日に「日本なし産地再生プロジェクト」がスタートしました。

●構成団体●

みなみ信州農業協同組合、下伊那園芸農業共同組合、JA 全農長野南信事業所、飯田市、松川町、高森町、阿智村、下條村、喬木村、豊丘村、長野県

●実施内容●

このプロジェクトでは、日本なしの産地再構築に必要な、担い手の育成・栽培技術・生産振興等に関する支援について検討し、関係機関・団体の役割分担のもと対策を実施していきます。

●設置期間●

令和4年6月30日から令和10年3月31日



県育成新品種  
「天空のしずく（南農なし6号）」



栽培技術研修の開催



若手農業者との意見交換



天空のしずく（南農なし6号）の  
原木お披露目会



早期多収、省力化栽培技術の検討



日本なしを使用した新商品の開発

★プロジェクトでは、日本なしを活用した菓子などの商品を通じて、日本なしの魅力を消費者に伝えることを目的に、南信州地域の老舗菓子店などとタイアップし、新商品開発に取り組んでいます。

★日本ナシは水分が多く加工特性が低いいため加工商品の開発はこれまで難しいとされてきましたが、地元企業の協力により商品の開発が進んでいます。

遊休化した樹園地を活用した地元企業による果樹栽培について

遊休化した樹園地は、老木化した樹体や従前の果樹棚が残ったままとなっている場合が多く、栽培を再開する際の障害となっています。また、市場で求められる高品質な果実を生産するためには、手作業など大変手間のかかる作業が必要とされ、他品目と比較して労働時間が長く、農地集積や規模拡大がなかなか進まない要因となっています。

そんな中、遊休化した樹園地を活用して果樹栽培を行い、直販のほか、カットフルーツ、ドライフルーツなどに活用する地元企業が登場し、地域農業の新たな担い手として期待されています。



【遊休化した樹園地】

耕作を再開するに当たり、放置果樹棚の撤去が必要な状況。



【整備の樹園地】

農地耕作条件改善事業を活用し、既存果樹棚の撤去と省力化栽培に必要なトレリスを設置。